

本校では、校訓「自主・自立」のもと、さまざまな教育活動を行っています。ここでは、1学期の活動の一部を紹介させていただきます。

## 十中タイム

毎週木曜日に「十中タイム」を設定しています。定められたテーマについての話し合い活動や各委員会の企画による活動などを行っています。



全校集会として、学級目標についての発表も行いました。



## 草取り大会

委員会企画により、クラス対抗で草取り大会を行いました。



## 防災学習・安全学習

本校では、防災学習にも力を入れています。今年度は「自助」をテーマにして、学習会や避難訓練、シェイクアウト訓練などを行っています。

### ・全校防災学習①

クイズ形式で、地震への備えや地震が起きたときの行動について学びました。



### ・全校防災学習②

非常持ち出し袋に何を入れたらよいのか、グループで話し合いました。



### ・緊急時下校訓練

緊急時に通学団ごとで安全に下校できるよう、訓練を実施しました。



## マナー講座

あいさつや言葉遣い、お辞儀の仕方など、社会人としての基本的なマナーを学びました。



## 職業講話

5つの職種のグループに分かれ、講師の先生から仕事内容や働く上で大切なことについてお話を聞きました。



## 次の世代に……

十四山中学校 山田 紗愛

### 【戦争の悲惨さ】

私が何よりもひどいと感じたのは、戦争中の生活です。ピースあいちで見つた写真は、特に印象に残りました。それは、「泣くことを我慢する子ども」の写真でした。とても奇妙な光景だと思い、解説を読んでみると、その子どもの父親は戦死していたことが分かりました。当時、戦争で死ぬことは、国に貢献することであり、名誉ある死と言われてほめたたえられました。悲しむと非国民だとのしられるため、この子どもは泣くことが許されなかったそうです。もしも私の家族が亡くなったら考えると、きっと悲しい泣いてしまうでしょう。でも、この子どもは殺された父親のことを悲しむことができません。とてもつらい環境であることが分かりました。

さらに調べてみると、この時代の学校は、戦争中心の授業が進められていたことが分かりました。国民学校と呼ばれ、兵隊になることはとても誇らしく、国のために働くことが当たり前であると、幼いころから教えられていました。戦時中の生活では、新聞や雑誌、服装や教科書などの視界に入るものから耳に入ってくる情報など、すべてが戦争一色に染まっていた。自己主張が苦手の日本人なら、戦争に協力させることは簡単だったのでしょうか。その生活の異様に驚きました。

もう一つ私がひどいと感じたことは、市民への無差別攻撃です。当初、戦争は市民を巻き込まないものとしていました。しかし、日本を始め世界各国は、軍需工場以外にも攻撃を開始しました。空襲が始まると、辺り一面は火の海に包まれ、焼き尽くされました。大やけどを負った人や、亡くなった人、真っ黒に焼き尽くされた街を想像すると、まるで地獄のようです。私は今まで防空壕に入れば助かると思っていましたが、そんなことはありませんでした。ある漫画には、防空壕の中に焼夷弾が入ってきて爆発するシーンや、防空壕の周りが火で覆われ、防空壕の中の人々が蒸し焼きにされる場面がありました。同じ人間が原形をとどめることなく死んでいく。その姿を戦闘機から眺めるのはつらくはなかったのでしょうか。日本で戦争が終わり、70年以上たった今でも、核だ、戦争だ、騒いでいる政治家たちがいます。かつて、大人の判断で何十万、何百万もの命が失われてしまったのに……。



### 【感想】

戦争を知らない世代、つまりは戦争を経験したことのない世代だけになるのも、あと数年だと言われています。平和学習を行う前までは、戦争を知らない世代になっても特に何も変わらないだろうと思っていました。自分自身も、今回の平和学習がなければ、戦争のことについて何も知らずに過ごしていたと思います。しかし、平和学習を終えた今は、戦争の悲惨さや愚かさをいかにして後世に伝えていくべきかを考えることの大切さに気付くことができました。戦争を知らない子どもたちがどんどん増えていけば、また同じ過ちを繰り返してしまうかもしれません。そうならないためにも、この学習を通して学んだことを、その先の世代へつなげていこうと思います。

## 平和学習を通して

十四山中学校 珠島 鉄平

平和学習で、原爆投下前の広島の様子や、原爆投下後の被害の状況など、戦争について多くを学びました。恐ろしいと思うことや、現在の違いに驚くことがたくさんありました。

### 【当時の暮らし】

戦時中、豊かな暮らしはできず、子どもたちは「お国のために」と働かされました。今では考えられないことであり、これは洗脳に近いなと思いました。今、自分たちに同じことができるかと言われると、できませんし、とても耐えられないと思います。なぜかという、今の自分たちは正しい知識を学んでいるからです。

また、当時の子どもたちにとって、辛かったことに「疎開」があります。家族と離ればなれになり、「家族に会いたい」「家族に甘えたい」「家に帰りたい」と思っても、家族は迎えに来てくれません。何ひとつ思い通りに生活することができないので、辛いと思うのは当然のことです。

### 【原子爆弾の被害】

原子爆弾は、多くの人々の「いつもの生活」を破壊し、被爆者を長期間にわたって苦しめました。原子爆弾の熱線による焼死、爆風による生き埋めや圧死など、原子爆弾による死者・被害者は数多くいました。かろうじて生き延びた人々も、臓器が死滅したり、家族が亡くなったりしました。また、「助けを求めた人々を見殺しにしてしまった」と心に大きな傷が残った人々もいました。誰もが家族に会いたいという気持ちが強く、その気持ちが生きる気力だったのだと思います。しかし、家族の最期に立ち会うことができたのは、ごくわずかな人々のみでした。きっと悔やんでも悔やみきれなかったと思います。

実は、辛い思いをしたのは日本だけではなく、かつて、日本も中国本土を空襲しており、大勢の敵兵を殺していました。戦争に勝者など存在しません。戦争は、起こした時点で、皆、敗者だと思います。「戦争を起こさない」ということが大切であり、戦争によって死者・被害者を出すことは、決して許されることではないのです。

### 【戦争をなくすために】

今、僕たちが直接戦争をなくすことはできません。しかし、できることはあります。それは、戦争について、正しく学び、広く後世に伝えるということです。全世界の人々が、戦争について正しく理解し、何をすべきかを話し合える日が来ることを願って、今回学んだことを周りの人に伝えていこうと思います。

